

給水配水一体化ご採用事例

千葉県 習志野市



習志野市の水道事業は、昭和24年給水戸数568戸で水道事業を開始し、長い歴史に育まれながら、多くの方々のご尽力によって築き上げられ、今日まで習志野市の貴重な資産となっております。

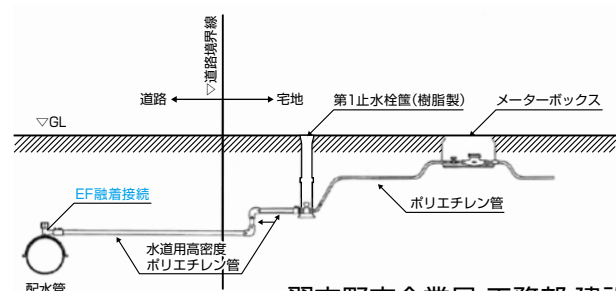
水道事業は、市民の皆様のリフラインを担う重要な事業であり、平常時での安全で安定した供給はもとより、災害時においても365日24時間の安定供給が求められております。

このような中、先の東日本大震災で、改めて危機管理能力や耐震対策の重要性を再認識させられたところでもあります。

そこで耐震化対策として、本市ガス事業において、東日本大震災時の液状化地区においてもPE管の被害が確認されなかったことから、水道管についても平成23年度より耐用年数を迎えた管の更新にPE管による耐震化を進めております。この際に配水管・サドル・給水管から止水栓に至るまでの継手を融着により一体化することで、さらなる耐震化を図り、自然災害に耐えられる水道施設を構築しているところであります。

今後におきましても、災害に強い施設の構築に努め、市民の皆様へ安全で安心してお使いいただける水道を安定して提供できるよう努力してまいります。

※ [給水人口110,308人・本支管総延長315,640m・耐震化率15.24(適合51.50)%] 2018年度末時点



習志野市企業局 工務部 建設課